

2015年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索



ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 3月号

子どものことを知るために

◆上手な観察方法

「子どものことは親が一番知っている」。確かにそのとおりですが、子どもは常に変化成長しています。自分（親）の考えの範疇からはずれてもあせらず、冷静に行動だけを見るようにしましょう。

◆先入観を持たない

子どもの行動の変化（今まで元気に外遊びをしていたのが、急に部屋に閉じこもってゴロゴロしている）に目を奪われて、問題行動と思いついてしまふ。でも、よく他の行動を見ると、友だちと電話していたり、ゴロゴロしたりしていても何か考えているのかもしれませんが。子どもの行動の一点だけに目を奪われるのではなく、トータルで行動を観察しましょう。

◆心ではなく、行動を観察する

心を読み取るのは心理学者でも難しいことです。子どもの心を見ているつもりでも、自分（親）の主観、憶測が入っているかもしれません。目に見えている具体的な行動のみをとらえるのがよいようです。

◆周りの状況を含めて観察する

人は周りの影響を受けやすい、環境の動物です。兄弟げんかも相手がいればこそ。兄が年齢的に上なので、悪いとされることも多いですが、実は弟が無意識に兄を挑発していることも多いものです。

子どものことをもっとよく知るために、アドラー心理学の手法をもとに、子どもを見るポイントをいくつかご紹介させていただきました。ご参考にしていただければ幸いです。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“「学年を越えて進む」が目指すもの”

公文式は「自学自習で高校教材」を目指して、学年を越えて進んでいく学習法です。

学校の授業を楽に理解していくためには、学年相当レベルの「読み・書き・計算」の力では不十分な場合が多いのです。学年より先に進んだ知的技術を持っていてこそ、授業も楽しく、余裕を持ってよく理解できるのです。

1学年分先へ進んだくらいだと、学校の勉強が楽になり、成績や態度もよくなったという成果が見えるくらいかもしれません。学校の授業にもほぼ心配がなくついていけるでしょう。しかしそれだけでは、自分のやりたいことを見つけ、思い切り探求していく感覚や、世界を広げていく力にはなりません。

自学自習によって、自分の力で2学年、3学年先へ進んだという体験を通じて、子どもは学力ばかりでなく、自主性や積極性、判断力や挑戦力の面でもめざましい進歩を見せてくれるようになります。わが子がそのような状態になるには基礎学力にかなりの余裕が必要なのです。

2015年 3月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21 書分の日
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

本市場教室日□

横割教室日△

今月のことわざ

以心伝心

「ことばや文字を使わなくても、おたがいの考えていることや思っていることが、相手に伝わるように。」
「食べたかったすいかを買ってきてくれるなんて、お母さんとは以心伝心だ。」
「おじいちゃんとおばあちゃんには仲がよくて、以心伝心の間からだ。」
くもん出版刊「四字熟語カード」より

ゆき子の一言コラム

【第1回】 子どもが家庭で本と接する機会がありますか

子どもが読書をすることは、子どもの学力をつけさせ、成績を伸ばすための王道です。

ですから、できるだけ小さい頃から本を読む（読み聞かせる）ことが大切です。読書の楽しみ、喜びを感じて、成長してきた子どもは、その後も、自然に本に手が伸び、さまざまな分野の本を読もうとします。

子どもは、本を読むことで、文章を知り、リズムを知り、漢字を知り、知識を得、疑似体験をします。このことは、自然に学び、学力を身につけていることになるのです。

子どもに、「本を読みなさい」と言うことは、決して難しいことではありませんが、そこに説得力がなければなりません。

「だって、本なんて面白くないもん」そう返ってきたとしても、今からでも遅くはありません。

本を読むことの大切さ、楽しさを教えてゆきましよう。

一般に、家に本が溢れている家庭で育った子どもは、本嫌い、読書嫌い、は少ないものです。

幼いときから、自然に本に接していて、それが当たり前になっているからです。

皆さん方のご家庭には、どれだけ本がありますか。どれだけ子どもが本と接する機会がありますか。

もちろん、家にさほど本がなくても問題はありません。

子どもと一緒に町の図書館に出掛けることで、かなりの部分は解決します。そこでいろいろな本を見せる。

一緒に開いてみる。面白そうな本を探させる。親が面白い本を見つける。借りてきて、一緒に読んでみる…。

いくらでも可能性はあります。

もう一点、親が本好きであって欲しいと言うことです。子どもは親や大人の姿を見て育ちます。

本を読むことの大切さ、喜びを知っている大人が身近にいるかないかで、子どもが受ける影響は違ってきます。家にあるのが、なにやらセンセーショナルは見出しで埋め尽くされた雑誌だけでは、説得力はありません。

最近夫婦共働きで、あまりないかも知れませんが、“子どもが学校から帰宅したら、お母さんが本を読んでいた”という姿は素晴らしいことだと思います。

また、“お父さんは夕食後必ず一定時間本を読んでいる”、“山積みされているこの難しいような本は、お父さんが通勤しながら読んでいるらしい”などという姿は、必ずや子どもに影響を与えます。

いつもテレビがついていて、大きな音が子どもの部屋にまで聞こえる中で、「本を読みなさい。勉強しなさい。集中しなさい」などと言っても、それは無理…というものです。

『子どもに読書する大切さを伝え、喜びを教え、習慣化させること』

少し努力して、家庭で環境を整えてみませんか。

時間を堪える

「宿題は必ずやってください。」進捗が進んでいない生徒さんに、厳しく言い聞かせたらしばらくして返ってきた答えが、この言葉である。「できるわけないじゃん!」。生徒との距離を保つのは難しい。近すぎず、遠すぎずの関係をずっと維持してはならない。それでいて、目一杯の愛情を注ぎ込む…。私はどちらかという、生徒との近すぎるきらいがある。このことの長短は理解しているつもりなので、昨今は努めて距離を意識しているのだ。それでも、『じっと待つ…』ということがどうも苦手で、ついつい手を差し伸べてしまう。「いつかは自立しなくてはいけない時期がくるのだから…」そう思うと、時間を堪えることもとても大切なことのように思えてくる。

「これだけ面倒見ているのに…」と考えてしまうのも、我々の立場ではよくあることだが、これは、結局相手から、つまりこの場合は生徒から、見返りを求めていることになる。厳に慎まなくてはならない。かく言う私も、そうした思いが一瞬よぎった。いけない、いけない。しかし私には、生徒の力を信じて祈ることしかできないのか…。

さて公文当日。何だかすまなそうに言う。「プリント難しすぎて半分しかできなかった…」

いつもやってこない子だったので、これだけ頑張ったのだから、褒めてあげれば良いものを、「そう…」のひと言で片付けてしまった。内心、「よくやったじゃないか」と思っていたのに…。それでも、静かに、「宿題はしっかりやらなくては…」とだけ言った。その後は互いに何も語らず、黙々とプリント問題を解く生徒がいる。何で?、出来るはずなのに…また知らず知らずのうちにイライラしてしまって、焦りの感情を抑えられない自分がある…。まだまだ修行が足りぬ。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。3月分の会費引き落としは3月2日(月)です。よろしく願いいたします。(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。最近 教室からお迎えの電話をする子で、電話代を置いていかない子がいます。大家さんから電話代が足りないと言われました。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。